

## 多自然川づくり取組事例

タイトル：荒川知水資料館(amoa)を活用した学習支援の取組について		
水系/河川名：荒川水系 / 荒川	河川分類：大河川	
河川の流域面積：2940	整備計画流量：6200m <sup>3</sup> /s	セグメント：3
事業：維持管理	事業開始年度：平成25年度	
目標設定：0	段階：0	
課題・目的(主な)：その他		
工法(主な)：その他		
配慮事項(主な)：人材育成		

## 背景・課題、目標設定

## ■背景・課題

河川環境の保全・創出に向けては、我々行政による河川管理はもちろんのこと、地域住民の方々に河川環境保全に対する理解や関心を高めていただき、具体的な行動に結びつけていただくことも重要である。特に、幼少期のうちから河川環境に関する学びに触れることは、個人が河川環境保全に関する理解や関心を高めることに効果的であると考えられることから、学校教育において、次世代を担う子どもたちの河川環境保全意識を啓発するために河川環境教育に取り組んでいただきたいと考える。

学校教育において河川環境教育を進めていくためには、河川管理者、学校関係者及び地域の環境団体の連携が不可欠である。連携に際しては、相互の人的ネットワーク及び信頼関係を構築し、それを継続していくことや、組織として取組を継続していくことができる仕組みづくりを行うことが重要である。河川管理者、学校関係者及び地域の環境団体が連携して河川環境教育に取り組んでいく上では、取り扱う内容と学習の目標やねらいとのすり合わせを十分に行うことや、教育課程上の位置付けを明確にし継続的に実施していくことが必要である。

## ■目標設定

荒川下流河川事務所では、主に荒川沿川の小学校を対象として、荒川の洪水・水害の歴史や自然環境等の情報発信拠点及び流域や地域の方々との交流拠点である荒川知水資料館(amoa)を活用し、河川環境教育に関する内容の学習支援を実施している。当該学習支援において、取り扱う内容やテーマが学習の目標やねらいと合致するよう、事前に各学校の先生と打合せを行い、児童に学習させたい内容を確認した上でプログラムを作成する。また、当該学習支援を通して、児童が学校での学習のみでは得られない知見や経験を得ること、また、児童の河川環境保全意識を啓発することができるような工夫を行う。



荒川知水資料館の外観



荒川下流河川事務所と荒川知水資料館の位置関係

## 取組内容・対策例(1/2)

## ■学習支援の提供

## 〔概要〕

荒川知水資料館では、多くの方々に荒川の治水や環境等を広く知っていただけるよう、事業及び流域の各情報の発信や防災・環境教育の支援等を行っている。その一環として、主に荒川沿川の小学校を対象に学習支援プログラムを提供しており、児童の多自然川づくりに係る学びの深化にも努めている。学習支援プログラムの概要は下記のとおり。

## ・荒川知水資料館見学プログラム

荒川に生息する動植物についての展示や、敷地内にある観察池に生息する動植物を観察しながら、荒川の自然環境や課題等について学ぶ。

## ・北区・子どもの水辺自然体験プログラム

荒川知水資料館から約1km上流にある「北区・子どもの水辺」を活用して植物や鳥の観察の他、魚やカニ、昆虫等の採集を体験し、生物同士の繋がりを学ぶ。

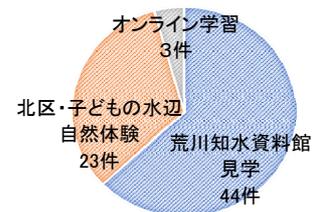
## ・オンライン学習プログラム

WEB会議ツールで荒川知水資料館と学校をつなぎ、荒川の環境等を学ぶ。

さらに、学習支援で荒川知水資料館を訪れた児童に荒川への理解や関心をより深めてもらうことを目的とし、館内にパネル展示スペースを設け、自然環境等をテーマとした企画展を期間限定で実施している。今年度は、荒川下流部でも繁茂が拡大している特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」をテーマに取り上げ、その生態や被害について解説する展示を行った。

## 〔利用実績〕

令和6年度は、計70校(児童総数4,695名)と多くの学校で学習支援を実施した。各プログラムの利用状況の内訳は右図のとおり。



プログラム別利用件数

### 取組内容・対策例(2/2)

[学習支援プログラムの作成、運営について]

学習支援プログラムの内容は、各利用校の実情や学習の目標・ねらいに応じて作成している。具体的な手順としては、学習状況や地域特性を把握するため、利用校に対してヒアリングを実施した上で、学習の目標やねらいに沿った学習支援プログラムを作成している。学習支援実施後は、利用校に対してアンケート調査を実施し、その結果を分析することでさらなる内容の充実に向けて検討を行っている。

#### ■職員の人材育成に資する取組

学習支援でも活用している「北区・子どもの水辺」においては、職員自身も河川環境保全に関する知識を深めることを目的とし、地域の環境団体の活動に職員が参加する取組も実施している。令和6年度は、地域の環境団体「北区水辺の会」や「北区水辺クラブ」にもご協力いただき、ナガエツルノゲイトウの生態や被害についての講義を受けた後に、「北区・子どもの水辺」でナガエツルノゲイトウを実際に駆除するという職員向けの講習会を実施した。また、例年秋頃には、「北区・子どもの水辺協議会」が実施している池のかいぼりに職員も参加して、定置網追い込みや魚類搬出・調査、底泥改善作業の体験を通して生物同士の繋がりがりや環境との関わり方を学ぶ取組も実施している。



荒川知水資料館敷地内の  
観察池



北区・子どもの水辺  
生き物調査



ナガエツルノゲイトウの駆除



池のかいぼり

学習支援の様子

職員の人材育成に資する取組の様子

### モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

#### ■モニタリング結果・アピールポイント

学習支援について、利用校へのアンケート調査の結果、令和6年度は利用校全70校中50校から回答が得られ、「総合的な学習の時間のスタートとして有効」や「子どもたちは目をキラキラさせて学び、思考を働かせていた」など、概ね好意的なご意見をいただいた。また、児童からも、「川や自然、生物を大切にしたいと思った」や「荒川に生物、植物がいっぱいいることがわかった」といったお礼のお手紙が寄せられた。このことから、提供している学習支援プログラムの内容は、利用校の学習の目標やねらいと概ね合致しており、効果的な河川環境教育の実施に資するものであると言える。この要因としては、過年度の実施内容やアンケート調査の分析より、運営体制及びプログラム作成の手順が確立していること、また、学校からの様々な要望に応じていることが挙げられると考える。

#### ■今後の対応方針

荒川知水資料館を活用した学習支援の取組は、児童の河川環境保全意識の啓発に資するものと考えられることから、今後も効果的かつ継続的に学習支援を提供していくため、下記にも対応していきたい。

[他の学習拠点の検討]

荒川下流部のみならず流域全体に学習支援を提供することを目指し、地理的に荒川知水資料館から遠い学校にもご利用いただけるよう、荒川知水資料館以外の学習拠点の検討を進めている。まずは、荒川知水資料館と荒川沿川の施設とで連携した学習支援の取組を検討しており、板橋区立舟渡小学校にご協力いただき、荒川知水資料館から約5km上流にある板橋区立リサイクルプラザや荒川戸田緑地生物生態園と連携した学習支援プログラムを、令和7年10月より試験的に実施している。

[持続可能な運営に資する取組]

継続的に学習支援を提供していくためには、持続可能な運営、とりわけ費用面の確保が課題であり、民間資金の活用もその手法の一つと考えられる。

令和6年度に、社会実験として荒川知水資料館3階にカフェを開設した結果、採算性やニーズが一定数確保された。このことを受け、北区岩淵周辺地区かわまちづくり計画協議会において、かわまちづくり事業にて、荒川知水資料館3階を改修しカフェ等の施設を整備する提案があった(整備イメージは右図(「北区岩淵周辺地区かわまちづくり計画」より)のとおり)。現在、河川のオープン化に向けた各所との調整を進めているところである。



休憩施設の整備イメージ

### 備考